



天気 | クラブA & A | 辞書 | 地図 | サイトマップ | ランキング | 最新情報

サイト内検索

home > be on Saturday > business



be Report

プロ野球解説者も「冬の時代」 狭き門だし年俸減るし

長引く不況で、プロ野球界も再就職難の真ただ中にある。「引退後の夢」だったテレビ解説者は、プロ野球の視聴率が低迷するなか、狭き門になるばかり。その待遇も年々、厳しくなる。選手たちには、現役を退いた後も厳しい勝負の世界が待っている。(石川雅彦)

「古田、古田、古田。古田と巨人出身者がいれば、あとはいらない。それが各テレビ局の本音ですよ」

大手広告代理店の関係者は、野球解説者として全国ネットのテレビ局が欲しいのはヤクルトの古田敦也捕手(37)だけだ、と現状を指摘する。

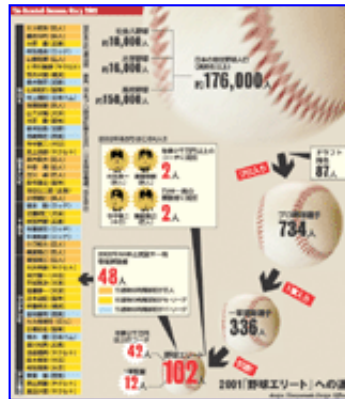
在阪テレビ局のプロデューサーは言う。

「各局とも口にこそしないが、誰が解説者でも視聴率はそれほど影響を受けない。だから製作予算が減らされると、まず解説者予算を削る」

テレビ解説者の契約額は、「バブル期には1億円を超えた人もいた」。だが、最近は減額の一途。複数の関係者の話から年俸を推定すると、巨人を昨年引退した楨原寛己氏(TBS)で2000万円。三冠王に3度なった落合博満氏(元テレビ朝日)で3000万円だった、という。

同時に「人減らし」と「契約内容の変更」も進む。各局とも、年俸1千万円以上の「年間契約」を1、2人に絞る一方で、1回の出演ごとに数十万円を払う随時契約を増やしている。一時は7人の解説者と年間契約していたNHKも、いまは大野豊氏(元広島)しかいない。

解説者にとっては「冬の時代」だ。今シーズン、NHKと民放キー局の解説者は約50人いた=図表。ここまでこれる「野球エリート」は、高校生以上の野球人口のたった0.03%。最終球団でみた内訳は、セ・リーグ出身が8割近い。巨人出身者(12人)だけで、パ・リーグ全体(11人)を



クリックすると、拡大します

- フロントランナー
- be Report
- 読み・解く
- 一流を育てる
- お金の悩み
- クリーンヒット
- マニュアル不要
- バックナンバー

- ことばの旅人
- プロの食材
- 編集長のツボ
- いわせてもらおう
- 健康
- 最新治療
- シリーズ夢
- バックナンバー

ご意見はこちらへ

MOONGARDEN.NET
produced by ginkaku

自動車保険 15社一括見積
[無料] webcrew

SUBARU LEGACY TOURING WAGON

日本前途教育 学ぶ喜びが味わえる
通信教育の happy-semi.com

いいものあれこれ http://www.t-uni.co.jp
東京ユニコムインターネット通販

自動車保険 インターネット 簡単お見積り
ソニー損保

IP電話 世界を繋ぐからでも
通話料 0円

上回っている。

01年に引退した日本選手101人で、全国キー局の解説者になったのは、今中慎二氏（中日）と槇原氏の2人。50倍の狭き門をくぐったのは、ともにセ出身者だった。

だからなおのこと、FA選手らの「セ・リーグ志向」に拍車がかかる。解説者になれば、（1）野球知識を利用できる（2）グラウンド復帰を含め、野球界とパイプを保てる（3）制約時間が短く副業ができる、といった利点があるからだ。

今季の引退選手でいえば、阪神の星野伸之投手（36）が典型例だ。99年末にオリックスからFAで阪神に移ったが、3年で8勝。通算176勝で終わった。パ・リーグなら、投手の勲章「200勝」の可能性もあったといわれたが、テレビ中継の多い阪神の方が在阪テレビ局やスポーツ紙の解説者に近いのは確かだ。

もうひとつ、解説者の「冬の時代」を象徴するのが、「引退表明の早期化」だ。

今季は星野投手の9月をはじめ、ダイエーの秋山幸二選手（40）、横浜の石井浩郎選手（38）、ヤクルトの池山隆寛選手（36）らがシーズン中に引退を発表した。引退後の就職先を早めに確保したいという選手の意識変化が読みとれる。

こうした動きについて、複数のプロ野球関係者が「底流にある事件」を指摘する。

それは00年11月に起き、選手たちに大きな衝撃を与えた。ヤクルトの元投手、高野光さん（当時39）の飛び降り自殺だ。職探しの疲れと、経済的な理由だったという。84年のドラフト1位で、新人ながら開幕投手を務め、10勝をあげた。現役通算51勝で、98年まではオリックスの投手コーチを務めた「エリート組」だった。

頼れぬ「年金」

プロ野球界には、選手になって10年で受給資格が生まれる年金制度がある。だが、10年在籍で支給額は年113万3千円。15年以上は頭打ちで年間142万円。終身支給とはいえ、受給は55歳になってからだ。引退後の生活をカバーするにはほど遠い。

プロ野球選手会も近年、年金問題には力を入れているが、「支給額アップより、現状維持が最優先」という。

巨人戦の低迷で拍車

有名選手、とくにセ・リーグの選手を解説者として受け入れるテレビ局には、少なくとも二つの思惑がある。その球団の取材がやりやすくなることと、公式戦の放映権、とりわけ巨人戦の権利獲得を有利に運べること、だ。

巨人の年間140試合のうち、半分の巨人主催ゲームの放映権は日本テレビ系がほぼ独占している。残りは、対戦する5球団が14試合ずつ主催する「巨人アウエーゲーム」。各局は、それを目当てに巨人以外の球団の引退選手を引き受け

てきた側面がある。在阪テレビ局の解説者と阪神の監督・コーチの座を行き来する大物が目立つのも、阪神 - 巨人戦などの放映権との関係で説明できる。

しかし最近、解説者と放映権の関係が微妙に変化してきた。長年、「超売り手市場」だった巨人戦の視聴率が低迷していることが、最大の原因だ。今年の巨人戦の平均視聴率（ビデオリサーチ調べ、関東地区）は16.2%。90年までの平均20%に及ぶべくもない。巨人戦の視聴率がレギュラー番組より下回る「非常事態」も頻発しつつある。

低迷の理由は、サッカーや大リーグなどの人気指摘されるが、その打開策はなかなか見つかりにくい。さらに来季は、巨人の松井秀喜選手（28）の大リーグ移籍が追い打ちをかけそうだ。

一方で、視聴者の「解説者離れ」もある。アナウンサーだけの「D」スタイルが一般的な大リーグ中継の影響で、「解説者がうるさい」「知ったかぶりが不愉快だ」といった苦情が増えている。

こんな現状では、テレビ局が「退団者を受け入れてまで、放映権を買うこともない」（在京テレビ局プロデューサー）と判断し始めたとしても無理はない。

マスターズリーグ・社会人野球... 受け皿、あの手この手

プロ野球界も「再就職先」づくりに懸命だ。最近では、OBによるマスターズリーグ創設と社会人野球への還流が目立つ。

マスターズリーグは01年11月から始まった。稲尾和久、張本勲、吉田義男、村田兆治氏ら往年のスター選手が並ぶ。35人～40人の5チームが、4回戦総当たりで優勝を争う。スポンサーにはスカイパーフェクTVなどがつき、全40試合で40万人の集客をめざす。現在、選手の給料は一律月50万円。解説者としての報酬が減るなか、「稼ぎの場」を提供している格好だ。

99年からは、日本野球連盟がプロ野球退団者の社会人チームでの選手登録を再開している。現在、若手を中心に50人近くのプロ引退選手が「職」を見つけている。選手だけでなく今秋には、元阪神監督の野村克也氏（67）が、食品関係会社のシダックス（本社・東京）のゼネラルマネージャー兼監督に就任した。

プロ野球界が狙う次の再就職先が、大学野球と高校野球だ。現在、高校野球連盟が元プロの受け入れには厳しいハードルを設けているが、「世界的な日本野球の低迷で、高校生からプロの指導を、との声が必ず出る」と読む関係者は多い。

プロ野球選手の年俵

選手会の02年度の年俵調査によると、選手の年俵平均は3,455万円(前年比1.9%増)。一軍登録選手(開幕時)では6,295万円(同10%増)、登録以外は1,641万円(同12.9%減)だった。



[Home](#) | [画面上](#)

ニュースの詳細は朝日新聞へどうぞ。購読の申し込みはインターネットでもできます。

asahi.comに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

[| 著作権](#) | [| リンク](#) | [| プライバシー](#) | [| 広告掲載と注意点](#) | [| アサヒ・コムから](#) | [| 朝日新聞社から](#) |

Copyright 2003 Asahi Shimbun. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.